オーディオ実験室収載

音源の比較試聴(8)
―イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタ―

１． 始めに

前報(7)に引き続き、各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

２． 音源の比較試聴の試聴方法と音源

各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の再構成はアースアキュライザーの活用(6)で述べたとおりです、今回もそれらの対策の効果を総合的に確認していきます。

音源は、各種音源のウジェーヌ・イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタを聴いていきます。

アナログ

ドイツグラモフォン 4864177(45 回転盤)

ヒラリー・ハーン（ヴァイオリン）

CD

hyperion CDA67993

アリーナ・イブラギモア（ヴァイオリン）

EXTON　OVCL-00179

戸田弥生（ヴァイオリン）

King International KKC-057

米元響子（ヴァイオリン）

UCJ UCCY-1048

千住真理子（ヴァイオリン）

STAGE+

ヒラリー・ハーン（ヴァイオリン）

Spotify

ヒラリー・ハーン（ヴァイオリン）

３．音源の比較試聴の試聴結果

アナログ盤と CD は、再生前に CD クリーナーで処理します。

アナログ盤は、LINN LP-12 と TohrensTD12 と Garad401 で再生します。

ヒラリー・ハーン盤は、LINN LP-12 で再生しますと、45 回転盤の真価を発揮し、レンジの広さやディテールの再現によりでスリリングな演奏が展開されます。

TohrensTD124 で再生しますと、これまでの印象では、押出のあるダイナミックな表現の印象が強かったのですが、ピチカートの余韻なども含めて、細かい表情も描けるようになって、LP-12 に近づいてきています。
Garad401 で再生しますと、真空管フォノステージの穏やかな音で、解像度で劣っているところがありましたが、穏やかな表現は残しながら解像度も満足すべきところまできており、45 回転盤の再生もこなせるところまできています。
このように、プレイヤーやカートリッジやフォノステージの個性は保ちながら、全体的にレベルが上がってきています。
CD は EMT981 で再生していきますが、千住真理子は CD ドライブから読み出して fidata HFAS1-S10 経由で BrooklynDAC+のルートでも再生してみます。
CD のアリーナ・イブラギモアは、3 番を演奏会で聴いています。緩急をつけたダイナミックな演奏が持ち味ですが、そういった様子が再現されています。使用楽器はモダンとピリオドを使い分けるとのことですが、音色からするとピリオドのように感じます。
CD の戸田弥生は、ガルネリの演奏で、先月にもその音色を演奏会で聴いています。ガルネリのコクのある音色を活かした力強い演奏です。
CD の米元響子は、演奏会でも聴いている 1727 年製のガット弦のストラディヴァリウスの演奏で、ストラディヴァリウスでありながらガット弦のような音色がしています。
CD の千住真理子は、EMT981 の再生では、演奏会でも聴いているガット弦のストラディヴァリウス「デュランティ」の音色が艶やかに表現されています。
千住真理子の CD ドライブから読み出した fidata HFAS1-S10 経由の再生では、これまでかなり差があった EMT981 の再生に近づいています。
以上のように CD でも楽器の音色の特徴とか、演奏方法の特徴がよく把握できるようになっています。
STAGE+のヒラリー・ハーンは、アナログ盤と同じマスターからの配信で PC 経由の再生ですが、45 回転盤のアナログには及ばないものの、スリリングな演奏の模様など、かなりのところアナログに肉薄したレベルに達しています。
Spotify のヒラリー・ハーンは、これもアナログ盤と同じマスターからの配信の fidata HFAS1-S10 経由の Spotify Connect による再生配信ですが、45 回転盤のアナログには及ばないものの、微妙なボウイングの様子など、とてもロッシーの配信とは思えないレベルに達しています。

４．まとめ

アナログプレイヤー3 機種によるアナログ再生、2 機種からの CD の再生、二つの配信サイトからのストリーミング再生のいずれをとっても、アースアキュライザーの投

入とそれに伴うアースラインの再構成の結果、すべて効果が明白に現れ、格落ちするような再生経路はなくなったことが確認できました。

以上